

特集

産婦人科医が知っておきたい 性教育のポイント

企画者のことば

松村謙臣* 貫戸明子* 甲斐 冴*

人間の性は、妊娠・出産のために必要であるのみならず、性感染症や子宮頸癌などの疾患にも関連し、さらに、多様な心理的・社会的側面ももちます。諸外国では幼児期から性教育を開始することがスタンダードとなっているのと比較して、日本は性教育後進国となっていています。一方で、日本のアダルトコンテンツは異常なほど豊富となっており、アダルトコンテンツをお手本に現実でもファンタジーの内容を「普通のこと」として実践してしまうため、相手との関係性がうまく作れない場合が多々あります。そして、感染症や妊娠については「お手本」には出てこないため、自分がやっていることの危険性や犯罪意識もないケースもあります。このような性に対する歪んだ認識は、日本社会全体に深刻な影響を与えており、早期から性教育を通じて子どもに性に関する正しい知識を伝えることの重要性は明らかなです。

産婦人科医は、社会から性の知識に精通している専門家と期待されており、小中高生への性教育を頼まれる機会がしばしばあります。しかし、一般の産婦人科医にとって、性教育の方法を体系的に学ぶ機会はなく、どのような内容をどのような方法で伝えるのが適切であるかについてよくわからずとまどうことも多いと思います。本特集では、各分野のエキスパートの先生方に執筆をお願いして、性を真正面から取り上げ、現代の若者が性をどう捉えているのかという点から掘り下げて、正しい性教育のあり方を提示することを目指しました。

本特集が、性について、「産婦人科医のところには正確な情報がある」、「産婦人科医は正確な情報をもっているから相談に行ってもいい」という土壌を作ることに貢献し、読者諸氏による診療と教育に深みをもたらすことができれば幸甚に存じます。

*Noriomi Matsumura, Akiko Kanto, Sayaka Kai 近畿大学医学部産科婦人科学教室